

令和元年6月25日現在

機関番号：24302

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K18220

研究課題名（和文）紀伊半島の漁業集落を対象とする社会・空間史アーカイブの構築

研究課題名（英文）Establishing a social and spatial history archive for fishing villages and seaside settlement in the Kii Peninsula

研究代表者

松田 法子 (Matsuda, Noriko)

京都府立大学・生命環境科学研究科・准教授

研究者番号：00621749

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：1、和歌山市より鳥羽市まで半島全体の踏査を完了し、今後一連の研究で一次調査対象とする90箇所強の集落を選定した。2、計5箇所の集落で二次調査を実施した。調査項目は、地形（造成）、街路及び街区の構成、地割、民家の構成、空き地の分布、特徴的な景観構成要素の抽出、土地所有形態と変遷、聞き取り調査等である。3、郷土資料として計200点強の書籍を収集・確認し、関連書誌情報として整備した。4、デジタルアーカイブの公開準備として、現地調査所見、集落の歴史、過去の被災記録、資料状況、各年代の空中写真など共通掲載事項のフォーマットを作成・入力した。5、行政機関や自治会との協力・連携関係を構築した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

わが国の漁業集落に関する学術調査研究の達成度はきわめて貧弱で、漁業集落の持続や被災・復興に関する研究状況も同様である。本研究では紀伊半島の漁業集落・臨海集落を対象に史的及び現況の学術調査研究を実施することで、前述のような研究史を前進させる学術的意義を有する。また、得られた成果は近い将来ウェブサイト上で閲覧・参照できるデジタルアーカイブに整備することで、紀伊半島の漁業集落に関する過去から今日までの持続のありさま、集落の社会的・空間的特性の歴史的諸相、被災史、及び2010年代の現状を記録したデータベースとして整備し、学術研究や政策立案等のプラットフォームとして提供する社会的意義を有する。

研究成果の概要（英文）：[1] Our research team have visited all the seaside villages in Kii Peninsula, from Wakayama City to Toba City in preliminary survey and selected just over 90 villages as subjects of a primal survey. [2] Secondary survey was conducted in five villages. Topography - or artificial land creation, street and block composition, land division, composition of historic houses, distribution of residential land which became vacant, extraction of unique landscape components, land ownership and its transition, interview survey, etc., were surveyed. [3] The team have collected and filed just over 200 books, thesis or articles on local history. [4] Database of surveyed data, history of villages, chronicle of disasters, conditions of existing documents and aerial photos of each age were created to prepare for publishing a digital archive. [5] The team has created strong relationships between local governments and local communities.

研究分野：建築史・都市史

キーワード：漁業集落 南海トラフ地震 被災史 津波 紀伊半島

1. 研究開始当初の背景

東日本大震災後、三陸の漁業集落を対象とする調査研究が進みはじめたが、元来わが国の建築史分野からの漁業集落研究は非常に少なく、農村研究に比べて大きく立ち遅れてきた。歴史学等に少数の成果があるが、漁業集落の社会をその空間のあり方と共に捉える視点は弱く、災害史との関連もほとんど論じられてこなかったなど、多くの課題が山積している。

こうした学術的状況のなかで、紀伊半島周辺では近い将来、南海トラフ地震およびそれに伴う津波の発生などの甚大な災害が予測されている。またこのような大規模災害の可能性以外にも、集落人口の高齢化や減少等に伴う空き家・空き地の増加、社会的インフラ整備の不足などゆるやかに進行する地域持続上の危機がある。しかし紀伊半島をはじめとする漁業集落・臨海集落の過去から今日までの持続のありさまや、過去に経験されてきた津波等による被災やそこからの復興過程、災害への備え等についての具体像はほとんど把握されていない。紀伊半島の漁業集落について今後予測される様々な危機に対応するためには、まず集落の社会的・空間的特性の歴史的諸相や被災史の解明、加えて現状記録を蓄積していくことが、集落の防災・減災、また持続に関する指針を検討していく上でもきわめて重要な課題となる。以上が研究開始当初の背景である。

2. 研究の目的

本研究は、紀伊半島の漁業集落を対象に、巨大災害や漸進的な縮退など今後同地に予測される様々な危機への備えとして、近世以降の災害・復興歴等を含む集落の社会・空間に関する集落史アーカイブの構築を目指す。同アーカイブでは、HGIS(歴史GIS)の手法も導入しながら、各集落が立地する湾や浦の地形(海底地形を含む)・地質・道・街区・地割パタンなど「地」側の条件や形質、及び近世以降現在までの集落の生業とその推移、また宝永地震、安政東海・南海地震など過去の被災とそこからの復興等に関する記録を集約したデータベースの構築を目指す。

3. 研究の方法

本研究では、紀伊半島各地に展開する漁業集落について、それらの地理・地形および集落内の様々な空間的・歴史的要素を調査し、これに地域住民への聞き取り調査を組み合わせ、同地漁業集落の主に近世以降の(被災・復興歴を含む)歴史的歩みを明らかにする。またその記録をデジタルアーカイブ化し、広く閲覧・参照可能なシステムの構築に着手する。成果の取りまとめと公開にあたっては、HGIS(Historical Geography Information System)を導入・活用する。

4. 研究成果

【平成 28 年度】

計 4 次の現地調査を実施した。これによって和歌山市南部より鳥羽市北部・離島部の踏査を完了し、今後一連の本研究で一次調査対象集落として扱う 90 箇所強の集落を選定した。あわせて、各地の公共図書館において郷土資料の調査・収集を実施した。郷土資料については、自治体史、地域史、漁業史、集落・建築史、民俗史、被災史、文書・記録、統計などにわたる計 200 点強の書籍を収集ないし確認し、書誌情報の整備や記述内容の仮分類などを行った。

また、データベースの作成準備に向けて、()集落の現地調査所見、()集落の歴史、()過去の被災記録、()資料状況、()各年代の空中写真などを掲載するデータベースのフォーマットを作成し、一次調査対象集落 90 箇所強について、()・()の入力を完了し、また()に着手した。なお()については 1940～2000 年代の空中写真を比較検討する準備を整え、港湾施設の整備状況、集落の拡張や周辺耕地の変化など対象集落に共通する検討事項を複数抽出した。

現地協力体制については、和歌山県立博物館・和歌山県庁などの関係部署と打ち合わせを行い、今後の現地調査推進に関連する情報交換等を実施した。

【平成 29 年度】

二次調査対象地に選定した漁業・港湾集落のうち、塩津・三尾・太地の計 3 箇所について計 3 期の現地調査を実施した。地形(造成)街路及び街区の構成、地割、民家の構成(屋根伏、宅地内における建ち方、エントランス-サブエントランス、階数、構造、構法、意匠的特徴等の悉皆調査、及び事例的実測調査)空き地の分布、特徴的な景観構成要素、土地所有形態とその変遷(明治～戦後)、住民への聞き取り調査 生活史、民家の来歴等 などである。調査項目については集落中心部全体の悉皆調査を実施し、内容をデジタルデータ化した。また 3 集落の街区や民家調査の野帳もデジタルデータとして扱えるよう整備した。その他の調査項目や写真も分類・整理し、今後整備するデータベースの素材とする準備を進めた。

現地調査は和歌山県地域政策課及び各対象地の行政機関や自治会との協力関係のもとで進め

た。

【平成 30 年度】

二次調査対象地に選定した漁業-港湾集落のうち、太地・坂手・答志の計 3 箇所について現地調査を実施した。集落の社会=空間構成に関わる項目の集落中心部における悉皆調査及び事例調査を計 3 期にわたって実施した。悉皆調査は、前年度と同様の項目について実施した。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1 件)

松田法子「生まれ来る大地に送り出されるわたしたち」、『場所、芸術、意識』、pp.4-11、明治大学大学院理工学研究科総合芸術系、2018.3

〔学会発表〕(計 1 件)

松田法子「生まれ来る大地に送り出されるわたしたち」、明治大学理工学研究科総合芸術系シンポジウム、2017.12

〔図書〕(計 1 件)

伊藤毅・フェデリコ=スカロニ・松田法子編著『危機と都市 -Along the water: Urban natural crises between Italy and Japan』左右社、2017.1

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年：

国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年：

国内外の別：

〔その他〕

松田法子研究室「三重県鳥羽市坂手島坂手の景観とその形成過程に関する研究」、京都府立大学生命環境学部環境デザイン学科卒業研究論文、2018.3

松田法子研究室「和歌山県太地町の旧市街地における町並み景観の構造分析」、京都府立大学生命環境学部環境デザイン学科卒業研究論文、2018.3

松田法子研究室「和歌山県太地町における民家の近代の展開に関する研究」、京都府立大学生命環境学部環境デザイン学科卒業研究論文、2018.3

松田法子研究室「三重県鳥羽市坂手島坂手の景観とその形成過程に関する研究」、京都府立大学生命環境学部環境デザイン学科卒業研究論文、2018.3

松田法子研究室「和歌山県塩津における急傾斜地集落の空間と社会」、京都府立大学生命環境学部環境デザイン学科卒業研究論文、2017.3

松田法子研究室「土地所有からみる近世近代太地の社会=空間構造」、京都府立大学生命環境学部環境デザイン学科卒業研究論文、2017.3

ホームページ等

「紀伊半島の漁業-港湾集落を対象とする社会・空間史アーカイブの構築」

http://www.matsuda-lab.net/pages/kii_village.php

6 . 研究組織 該当なし

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。